

飯塚市校務 DX 計画

令和7年3月 飯塚市学校教育課

1 飯塚市校務 DX 推進計画について

～ 社会の変化に対応した、本物志向・未来志向の人材育成へ ～

急速に変化する現代社会において、求められる能力は多様化し、学校教育にも新たな視点が求められています。第一期 GIGA スクール構想により、本市では、1 人 1 台端末が整備され、教育のデジタル化が大きく進みました。

第二期では、この基盤を生かし、さらに一步踏み込んだ教育の DX を進めることで、社会の変化に対応し、未来を担う人材を育成します。

特に、AI の活用による学習履歴分析や、パーソナライズされた学習コンテンツの提供など、最先端の技術を導入することで、生徒一人ひとりの個性と能力に合わせた教育を実現します。また、教職員のデジタルリテラシー向上を図り、ICT を活用した新たな教育方法を確立することで、より効果的な学びの場を提供します。

本計画の実現により、本市は、生徒が主体的に学び、創造性を育むことができる、そして教職員が新たなことに挑戦できる、本物志向・未来志向の活気あふれる飯塚市へと躍進していきます。

飯塚市校務 DX 計画とは？

飯塚市校務 DX 推進計画は、飯塚市における学校教育のデジタル化（DX）を推進するための計画です。GIGA スクール構想に基づき、1 人 1 台端末の整備が進んだ今、第二期 GIGA スクール構想を踏まえ、更なる教育の質向上を目指し、5つの柱で構成した計画です。

- (1) 統合型校務支援システムの導入
- (2) 教育ダッシュボードの活用
- (3) FAX 及び押印の見直し
- (4) ペーパーレスの推進
- (5) AI ドリルの活用

2 飯塚市校務 DX 推進計画の内容について

(1) 統合型校務支援システムの導入

令和7年度から校務支援システムを導入します。校務支援システムの導入は、学校運営のデジタル化を推進し、教員の働き方改革や教育の質向上に大きく貢献します。従来、紙ベースで行われていた事務作業や情報共有が、校務支援システムによって一元化され、効率化されます。これにより、教員は事務作業に費やす時間を大幅に削減し、より多くの時間を児童生徒との直接的な関わりに充てるできるようになります。

具体的には、児童生徒の成績管理、出欠管理、保護者との連絡などが、校務支援システム上で一元管理されることで、情報共有が円滑になり、教職員間の連携が強化されます。また、データ分析機能を活用することで、児童生徒一人ひとりの学習状況を詳細に把握し、個別指導に役立てることができます。これにより、児童生徒の学力向上や個々の能力の伸長を図ることが可能になります。

さらに、校務支援システムは、教職員間のコミュニケーションツールとしても活用できます。チャット機能や掲示板機能などを利用することで、リアルタイムな情報交換や共同作業がスムーズに行えるようになります。

校務支援システム導入による効果は、教員の働き方改革にとどまらず、保護者との連携も強化されます。学校と家庭との連携が深まることで、児童生徒の学習意欲向上にも繋がります。また、学校全体の業務効率化により、コスト削減にも貢献することが期待できます。

このように、校務支援システムは、学校運営の DX 化を推進し、教員の働き方改革や教育の質向上に不可欠なツールです。校務支援システムを有効活用することで、より良い教育環境を実現することができます。

統合型校務支援システム導入による効果 ➡ 教員の働き方改革と教育の質向上

統合型校務支援システム導入による主な効果	校務支援システム導入の成功のために
● 事務作業の効率化 紙の書類削減、情報検索の容易化 ● 情報共有の円滑化 教職員間の連携強化 ● データに基づいた教育 児童生徒一人ひとりの学習状況を把握し、個別指導に生かす ● 保護者との連携強化 学校と家庭との連携を深める ● 学校運営の透明化 学校運営に関する情報を共有	● 全教職員への丁寧な説明と研修 ● 運用ルールの明確化 ● 既存システムとの連携 ● データ移行 ● セキュリティ対策

（２）教育ダッシュボードの活用

統合型校務支援システムには、ダッシュボード機能があります。ダッシュボードとは、データを収集し、分析するツールの一つで、蓄積された大量のデジタルデータを収集し、分析し、集計値や表、グラフなど分かりやすい形で可視化する機能です。したがって、ダッシュボード機能を使うと分析結果を一覧表示することができ、各データを参照する必要がありません。文部科学省は、令和５年３月に「GIGA スクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」の中で、児童生徒や学校の重要情報を一画面に統合して活用しやすくする機能（ダッシュボード）の開発ならびに普及の重要性について言及しています。

【教員にとっての効果】

日々の業務を効率化し、より創造的な活動に集中できる環境をもたらします。煩雑なデータ入力や集計作業が自動化され、リアルタイムに必要な情報にアクセスできるようになることで、業務の透明性が高まり、課題の早期発見が可能になります。

また、児童生徒一人ひとりの学習状況を詳細に可視化することで、個別指導の必要性や、より効果的な指導方法を迅速に判断することができます。これにより、教員は、児童生徒の成長を最大限に引き出すことに集中できるようになります。

【児童生徒にとっての効果】

より効果的な学習をサポートするツールとなります。各児童生徒の学習進度や強み、弱みを可視化することで、一人ひとりに合わせた学習計画を立てることが可能になります。また、児童生徒自身が自分の学習状況を把握し、目標に向かって努力する意欲を高めることも期待できます。さらに、ダッシュボードを活用した学習は、児童生徒の主体的な学びを促進し、探究心や問題解決能力を育成する上で大きな役割を果たします。

【学校全体としての効果】

データに基づいた意思決定を可能にし、学校運営の質向上に貢献します。児童生徒の学力データ、出欠状況、部活動の参加状況など、様々なデータを一元管理することで、学校全体の現状を正確に把握し、改善すべき点を明確にすることができます。また、保護者への情報提供を円滑化し、学校と家庭との連携を強化することも期待できます。C4th のダッシュボード機能は、単なるデータの可視化ツールにとどまらず、学校全体の教育活動を革新し、より良い学校づくりを実現するための強力なツールなのです。

生活のようす



学習のようす



校務支援システムダッシュボードイメージ図

(3) FAX 及び押印の見直し

文部科学省から、クラウドツールの一層の活用、FAX や押印等の制度・慣行の見直しを行う旨の通知文書が出されており、教育委員会や学校に対応が求められています。FAX や押印といったアナログな業務の見直しは、学校全体の業務効率化と教員の働き方改革に大きく貢献します。

【文書作成・承認プロセス】

統合型校務支援システムの導入により、紙の書類作成の手間が大幅に削減されます。また、承認プロセスがオンライン化されることで、迅速な意思決定が可能になり、業務の滞りを防ぐことができます。

【連絡調整】

メールやチャットツールを活用することで、電話や FAX による連絡の頻度を減らし、より迅速かつ正確な情報伝達を実現できます。

【文書保管】

文書をデジタル化し、クラウド上に保存することで、紙の書類の保管場所や管理の手間を削減できます。また、必要な情報に迅速にアクセスできるため、業務効率が大幅に向上します。

これらの取り組みによって、教員の働き方改革が実現され、教員は本来の業務である教育活動に集中できるようになります。また、業務効率の向上により、学校全体の生産性が向上し、より質の高い教育サービスを提供できるようになることが期待されます。

具体的な効果としては、以下のような点が挙げられます。

教員の負担軽減	事務作業の負担が軽減され、教員はより多くの時間を児童生徒と向き合うことができる
業務効率の向上	文書作成、承認、連絡調整などの業務が効率化され、学校全体の業務効率が向上する
情報共有の促進	クラウド型のシステムを活用することで、教員間の情報共有がスムーズになり、連携が強化される
ペーパーレス化の推進	紙の書類の削減により、環境負荷の低減にも貢献できる

（４）ペーパーレスの推進

従来、紙媒体で行われていた様々な業務が電子化されることで、業務の効率化が図られ、教職員の負担軽減が期待されます。例えば、児童生徒の成績表や出欠簿、指導要録、学校日誌等の文書の電子化により、紙の保管場所や印刷にかかるコストが削減され、情報検索も容易になります。

また、保護者への連絡手段も多様化し、メールや学校ホームページ、保護者連絡アプリなどを活用することで、より迅速かつ確実な情報伝達が実現します。これにより、保護者とのコミュニケーションが円滑になり、学校と家庭との連携が強化されることが期待されます。

さらに、授業においても、教材の電子化やオンライン学習の導入により、児童生徒一人ひとりの学習スタイルに合わせた指導が可能になります。

ペーパーレス化は、学校運営の効率化だけでなく、教育の質向上にも大きく貢献します。例えば、児童生徒のポートフォリオを電子化することで、児童生徒の成長過程を可視化し、より客観的な評価を行うことができます。また、オンラインアンケートの導入により、児童生徒の意見をより多く収集し、教育内容の改善に生かすことも可能になります。

ペーパーレス化による具体的な効果

業務効率化	紙の書類作成・配布・保管の手間が削減され、業務効率が向上します
コスト削減	紙、インク、印刷機などの消耗品費が削減できます
情報共有の促進	リアルタイムで情報共有が可能になり、コミュニケーションが円滑になります
教育の質向上	多様な学習スタイルに対応できるようになり、児童生徒の主体的な学習意欲を高めることができます

（５）AIドリルの活用

市内全小中学校で、令和6年度からAIドリルを活用しています。AIドリルは、従来の教育方法を大きく変革する可能性を秘めています。単に問題を出題するだけでなく、児童生徒一人ひとりの学習データを詳細に分析し、最適な学習経路を提示することで、より効果的な学習をサポートします。

AIドリルがもたらす効果は以下のことが考えられます。

① 個別最適な学習の提供による学力向上

- **精度の高い学力診断:** AIが児童生徒の解答パターンを分析し、その児童生徒の理解度を正確に把握します。これにより、児童生徒の強みや弱みをピンポイントで特定し、必要な部分を集中的に学習させることができます。
- **パーソナライズされた学習内容:** 各児童生徒のレベルや学習スタイルに合わせて、

問題の難易度や出題範囲を自動調整します。これにより、児童生徒は、自分のペースで学習を進めることができます。

- **反復学習の効率化:** 苦手な問題や概念は、繰り返し学習することで定着率を高めます。AIは、児童生徒の理解度を測りながら、最適なタイミングで復習問題を出題します。

② 学習意欲の向上

- **達成感の獲得:** 目標を達成した際のフィードバックなどを通じて、児童生徒に達成感を提供します。
- **学習の楽しさ発見:** AIが学習の過程をサポートすることで、児童生徒は学習の楽しさを実感し、自ら学習に取り組むようになります。

③ 教員の指導の質向上

- **データに基づいた指導:** AIが収集した学習データを活用することで、教員は児童生徒の理解度を客観的に把握し、より効果的な指導を行うことができます。
- **個別指導の効率化:** AIが児童生徒の苦手な部分を特定することで、教員は児童生徒個々に合わせたきめ細やかな指導を行うことができます。
- **新しい指導法の開発:** AIとの協働を通じて、教員は新しい指導法を開発し、より効果的な授業を展開することができます。

3 校務DXロードマップ

飯塚市校務DXロードマップ

項 目	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10～
統合型校務支援システム		『学校運営のデジタル化』 R7年度から導入			
教育ダッシュボード		『児童生徒や学校の重要情報を一画面に統合して活用』 R7年度から導入			
保護者連絡ツール (tetoru)		『情報共有の円滑化と、職員間の連携強化』 R7年度から導入			
FAX及び押印の見直し		『業務効率化と教員の働き方改革』 R7年度から導入			
ペーパーレスの推進	『業務の効率化とコスト削減』 R5年度から継続				
AIドリルの活用	『個別最適な学習の提供と効果的な学習のサポート』 R6年度から各学校で導入				
G I G A 端末更新			中学校 購入はR7年度	小学校 購入はR8年度	